

子どもの自殺 注意して

夏休み明けの9月1日は子どもの自殺が最も多い日。内閣府はそうした分析結果を示し、子どもの小さな変化を見逃さないよう注意を呼び掛けている。子どもはどのようなSOSのサインを発するのか。親はどう対応すればいいか。児童・思春期の精神医学に詳しい徳島大学病院精神科神経科の田丸麻衣医師に聞いた。
(聞き手＝木下真寿美)

親はどう対応すべきか

徳大病院・田丸医師に聞く

「子どもはどんなサインを発するのか。」「学校に行きたくない」と言葉で説明できない。まずは「どうして行きたくないのか」と穏やかに尋ねる。子どもが答えなくても、心配していることを伝え、場合がある。こうして「話せるようになったら話して」と言う。親には心情を言い

イライラや頭痛など体の症状 SOS 見逃さないで

「死」について子どもと話し合っただ後の対応は。学校を休ませるのは一つの手法。ただ、その間、保護者だけで抱え込むのではなく、学校の先生やカウンセラー、児童相談所の相談員らのサポートを得て、適切な対応を検討すべきだ。学校に適切なデータを基に、1972年から2013年に自殺した子ども計1万8048人を日付別に分析した。

神科などの医療機関を早めに受診してほしい。子ども「死」について子どもと話し合っただけで済ませないで、傾ける姿勢を持つことが大切だ。

夏休み明けが最多

友人関係や進路で悩み

内閣府が42年間の18歳以下の子どもが自殺した日を分析したところ、9月1日が131人と突出して多く、続いて4月11日(99人)、4月8日(95人)、9月2日(94人)、8月31日(92人)と新学期の前後で多かった。厚生労働省の「人口動態調査」のデータを基に、1972年から2013年に自殺した子ども計1万8048人を日付別に分析した。



「子どもの言葉にならないサインに気付いて」と話す田丸医師＝徳島大学病院

＝相談窓口＝

- ◆とくしま自殺予防センター (平日午前9時～午後4時。子ども、保護者に対応) <電088(602)8911>
- ◆文科省・24時間子供SOSダイヤル (子ども、保護者に対応) <フリーダイヤル(0120)078310>
- ◆NPO法人チャイルドライン支援センター (午後4～9時。子どもに対応) <フリーダイヤル(0120)997777>

